



▼ 12 月 16 日 市役所



目指せ全国優勝！！

第 39 回全日本少年サッカー大会滋賀県大会(11 月 21 日～29 日開催)で 4 年ぶり 5 回目の優勝した野洲ジュニア・フットボール・クラブの選手たちが市役所を訪問しました。

滋賀県代表として、鹿児島県で開催される全国大会(12 月 25 日～29 日開催)に出場します。

キャプテンをはじめ選手一人ひとりが「みんなと力を合わせ一戦一戦がんばります。」と、控えめながら優勝をめざしての力強い決意を語り、市長から激励を受けました。

見事な職人技できれいに！

野洲川斎苑が平成 14 年に開苑以来、毎年、滋賀県造園協会南地区守山野洲支部のメンバーが、ボランティア活動として、施設内の生垣や低木の剪定作業をしています。

今年も、晴天のなか支部会員 10 数人の皆さんが早朝から作業しました。

作業終了後には、野洲川斎苑所長から「皆さんのおかげで、きれいになりました。今後ともよろしくお願いします。」とボランティア活動に労いの言葉がありました。

▼ 11 月 19 日 野洲川斎苑



ヨシ群落の再生を目指して

びわ湖岸に多く群生していたヨシ群落の再生をめざし、市内・外から親子など約 300 人が参加しヨシ苗を植栽しました。

当日は 1,500 株ものポット苗を植栽し、終了時にはヨシ笛コンサートを楽しみながら、おにぎりやしじみ汁を味わいました。

▼ 11 月 7 日 あやめ浜周辺



歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

西河原遺跡群の木簡 もっかん

・「棕□伝之我持往稻者馬不得故我者反来之故是汝ト部
・「自舟人率而可行也 其稻在処者衣知評平留五十戸且波博士家」



西河原森ノ内遺跡2号木簡

野洲市西河原には、古代律令制期に展開した重要な遺跡群があります。それは西河原森ノ内遺跡を始めとする複数の遺跡（西河原宮ノ内遺跡・西河原遺跡・湯ノ部遺跡・光相寺遺跡・吉地薬師堂遺跡・吉地大寺遺跡）からなり、西河原遺跡群として知られています。

この遺跡群の大きな特徴の一つに7世紀後葉～8世紀前葉の木簡が多数（89点）出土していることがあげられます。都城以外の地でこれだけの出土数は特異であるといわれており、国の重要文化財に指定（総95点）されています。特に著名なものが「西河原森ノ内2号木簡」（写真）で、7世紀後葉・天武朝期（672～686年）に中央（国）の人物「棕□（直か首）」から地方（西河原森ノ内遺跡周辺）にいた人物「ト部」に対して送られたとみられる文書木簡です。釈読すると、「棕□伝ふ。我が持ち往し稻は、馬を得ざるが故に、我は反り来る。故是に汝ト部、自ら舟人を率いて行くべし。其の稻の在り処は衣知評平留五十戸の丹波博士の家」となり、棕なる者が平留五十戸から稻を持ち帰ろうとしたが馬の調達が出来なかったため、ト部に舟人を率いて取りに行くように指示した文書とみられます。この木簡には「評」、「五十戸」といった郡里制以前の古い表記があり、7世紀代のものであることを確実に裏付ける史料として貴重かつ重要です。また、出拳（貸稲）にかかわる木簡や大型の倉庫の存在など、官衙（評衙、郡衙）としての性格が強く認められる遺跡群であり、その性格を巡っては、周辺の発掘調査の進展が重要であり、考古学的な物証の蓄積をまって、議論が深められるものと思われま

博物館では西河原の近世～近代の古文書展を2／6（土）～3／13（日）まで開催をします。この西河原遺跡群の木簡（複製）も一部展示いたしますので、ぜひご覧ください。

（博物館専門員 山田謙吾）



野洲文化芸術祭2015開催

「みんなで創ろう！芸術文化と豊かな心を！」をキャッチフレーズに、野洲文化芸術祭2015が開催されました。

文化協会の会員が中心となり、市民手作りの作品展示や舞台発表などを行いました。

例年より多くの人々が来場し、皆さん「芸術の秋」を楽しんでいました。

次回開催に向けた期待の声も大きく、来年度の更なる飛躍を目指します。

▼11月1日 野洲文化ホール



三味線と民謡で心豊かに

野洲市さざなみホールで「津軽三味線日本民謡まつり」（祇王之里まほろば会白井教室）が開催されました。

当日は、多くの人々が訪れ、出演者は日頃の練習の成果を余すことなく発揮しました。

会場では、自然に手拍子が起こり、知っている曲を口ずさむなど、出演者と会場が一体となり温かい空気に包まれました。

▼11月8日 さざなみホール

